

News Letter

Vol. 06

2022年12月 発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

「男性育休を考えよう！家族を支えるパパ支援を開催しました」（さぼっとカフェ）

令和4年7月5日、第101回拡大版さぼっとカフェを開催し、島根大学、島根県立大学、島根県、市町村やその他県外の複数の大学から22名が参加しました。今回は本年度から改正育児・介護休業法が段階的に施行されるため「男性育休を考えよう！家族を支えるパパ支援」と題し、講師としてFathering Japan 関西副理事長の阿川勇太氏（大阪総合保育大学）をお招きしました。研修前半は、阿川先生ご自身が育休での失敗から家族での話し合いにより2度目の育休が充実したものになった体験談を紹介いただき、後半は制度面の話や、父親の育休参加による家族への影響を過去20年間のデータで夫婦の家事・育児時間の変動など分かりやすくご説明頂きました。最後に、父親の育休

を職場が応援することをきっかけに、介護、自身の病気など、職員全体の仕事のアンバランスさを是正し、全員のワークライフバランスを守ったため、健康経営の視点から見ても業績が上がる傾向がある事が分かってきてことを紹介いただきました。

また、出産・育児等による労働者の離職を防ぎ、男性の育児休業取得に対する理解を深め、希望に応じて男女ともに仕事と育児等を両立できる雇用環境を整備するため、当日の内容を録画し、島根大学管理職員に対する育児休業に関する研修にも活用させていただきました。



2022年度女性研究リーダー育成支援事業 (共同研究型)

連携機関間の共同研究を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、連携機関に所属する女性研究者が研究リーダーとなる連携機関間の共同研究に対し、研究費を助成しています。今年度採択されたのは下記研究課題です。

◎：研究代表者

島根大学

- 一般病棟における予期せぬ臨床的急性増悪の自動スクリーニングシステム開発にかかる臨床兆候の特定
 - ◎古賀 美紀 [医学部 (教授)]、森山 美香 [島根県立大学看護栄養学部 (教授)]、岩下 義明 [医学部 (教授)]、津本 優子 [医学部 (教授)]、佐藤 亜美 [医学部 (助教)]

- ラクトン環構造を有するジクマロール超分子ファイバーの抗菌活性評価方法の開発

◎王 傲寒 [総合理工学部 (助教)]、山口 勲 [総合理工学部 (教授)]、梶間 由幸 [米子工業高等専門学校総合工学科 (准教授)]

- 学びの主体としての教師のニーズに基づく教員研修の評価指標開発

◎香川 奈緒美 [教育学部 (准教授)]、深見 俊崇 [教育学部 (教授)]、高橋 泰道 [島根県立大学人間文化学部 (教授)]

米子工業高等専門学校

- AIR475における現代美術作家との共同制作によるSteam教育について

◎高増 佳子 [総合工学科 (教授)]、藤田 英樹 [島根大学教育学部 (教授)]、井上 学 [総合工学科 (准教授)]



SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

COVID-19感染拡大時における高齢者の心理的孤独

【日時】 令和4年5月23日(月) 12:10~13:00
【講師】 豊島 彩 (島根大学人間科学部 講師)
【参加人数】 20名

高齢期の社会的孤立と孤独感についての概説の後、COVID-19感染拡大の下での孤独感に関する調査・研究を報告していただきました。COVID-19感染拡大の下では交流が制限され、高齢者への支援も充分ではないことが問題になっていますが、成人(20歳~79歳)への孤独感の集団レベルでの調査では年代に特に差はなく若者においても孤独感を感じていること、現時点ではCOVID-19感染拡大における孤独感への大きな影響は報告されていないが、長期的な調査によって課題が見えてくる可能性があるとのことでした。環境や時代によって変わる部分と普遍的に変わらない部分を知るためには、社会を捉える目を養うことが必要だということを強く感じたセミナーとなりました。

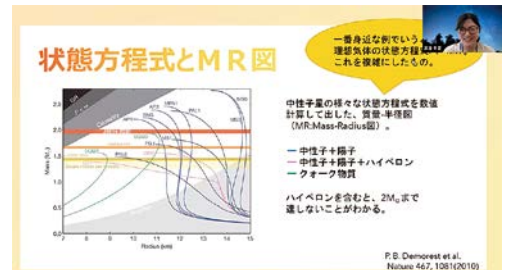


数値計算で探る中性子星の内部構造

【日時】 令和4年6月15日(水) 12:10~13:00
【講師】 渡邊千夏先生 (松江工業高等専門学校 助教)
【参加人数】 17名

「中性子星とは(どんな星?)」としてその発見の経緯や特徴を示し、その後「研究のお話(中性子星の内部構造の数値計算)」として様々な波長による中性子星の観察結果と数値計算を比較することで、内部構造を明らかにしようとしている研究内容について丁寧に説明していただきました。

中性子星は観測データから強い磁場と速い回転を持つという特徴が示されており、その状態方程式を解く研究を進められ渡邊先生が実際に行った数値計算の結果から、ある条件では現実には有り得ることを示すことができ、中性子星の内部構造を明らかにしつつあるとのことでした。宇宙研究は、ロマンがあり憧れる研究分野ですが、それだけでなく多くの研究者と一緒に研究を進められる「研究」の醍醐味を味わえる分野なのかもしれません。



インドネシア農業における農場継承の決定要因分析

【日時】 令和4年7月26日(火) 12:10~13:00
【講師】 ロサリア ナタリア セレキー (島根大学生物資源科学部 助教)
【参加人数】 10名

インドネシアをフィールドとして「後継者のいる農場とない農場の特徴」や「農家における職業継承に影響を与える要因」そして「農業継続へのモチベーション」についての研究成果をプレゼンしていただきました。社会状況だけでなく、相続問題や職業継承におけるモチベーションの変化についても詳細に分析をされており、インドネシアの将来を見据えて研究していることがよく伝わってきました。

セレキー先生の研究は国を越えて農業経営の将来を考えることのできる場を作ることにもつながると思われました。そして出身の異なる研究者が同じテーマで研究することが研究分野の発展に寄与するようになることを改めて感じる事ができました。

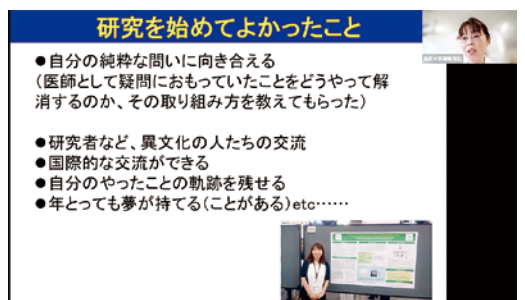


GH-IGFシグナリングが導いてくれた研究と人生の扉

【日時】 令和4年8月24日(水) 12:10~13:00
【講師】 鞆嶋有紀 (島根大学医学部 准教授)
【参加人数】 16名

患者さんの病気解明のため関連した遺伝子解析を行った先生は、アメリカ留学のチャンスを掴み、GH-IGFシステムについて研究を行った結果、IGFと出生後も続く低体重との関係も明らかにすることができたそうです。これからは、遺伝子解析や機能解析を行いながら、成長障害とGH-IGFシグナリング異常について解明していきたいとのことでした。

また、留学先のラボではポス女性医師である自身や他の医師たちが研究と育児を見事に両立させていたことから「仕事に専念」から「仕事も家庭も」に考え方が変わり、自身で育児をしてようやく病児の母親の気持ちがわかるようになり、小児科医としても診療の幅が広がったことも大きな変化だったそうです。しかし、日本では育児に十分な時間をかけることができないことの矛盾や管理職に就いている女性研究者が少ないなどジェンダーギャップがあることを感じると言います。鞆嶋先生は解決に向けて行動したいとも話され、参加者からも日本において女性研究者が研究と育児を両立しにくいのは何故なのか、どうしたら改善できるのかなどさまざまな意見が出され、本ミーティングは働き方についても考える貴重な時間となりました。



戦後地方都市における都市形成過程に関する研究

【日時】 令和4年9月29日(木) 12:05~12:50
【講師】 荒木菜見子先生(米子工業高等専門学校 助教)
【参加人数】 16名

建築学専攻の先生は、国鉄岐阜駅前の繊維問屋街に着目して、事業主体の形成、都市計画との関係、戦後の制度設計との連関の観点から都市形成過程を明らかにしようとしている研究についてお話していただきました。この地域についてまとめた史料や新聞、行政文書、図面、古写真、登記簿を収集するとともに、当時を知る方への聞き取り調査や現状記録などを行なわれており、豊富な史料を元に分析し、北満州からの引揚者集団が一人のリーダーを中心に組織化され、自律的な都市形成が行われた後、行政が引き継ぎ形で住宅支援事業が進められたそうです。

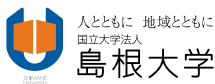
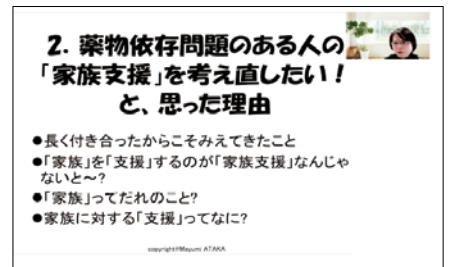
自身の研究は都市史だけでなく、人文社会学にも通じる所があり、そこにどういった人間がいて、どういった社会の構造があってそれが都市空間として表れているのかということ調べていきたいそうです。複雑だからこそ挑戦したいという荒木先生の研究への姿勢が印象的でした。



薬物依存問題のある人の家族支援

【日時】 令和4年10月28日(金) 12:10~13:30
【講師】 安高真弓先生(島根大学人間科学部 講師)
【参加人数】 8名

安高先生は実践現場で薬物依存問題のある人の家族教室や相談を担当され、厚生労働省の研究班では家族支援プログラム開発および実装など、臨床・実践の場で多くの実績を積んでこられました。長く家族支援に関わったからこそ、家族支援を考え直したいと思われたそうです。薬物乱用再発防止のためには「家族」の支援が必要で、そのためには「家族を助けるのが支援なのでは？」という思いが募ったそうです。そこで「家族」の置かれている状況や必要な支援を明らかにするためアンケートを行い、家族自身がPTSD(心的外傷後ストレス障害)のハイリスク状態の人が半数近くいること、また「家族」と言っても多様であり、それぞれ丁寧な支援を組み立てる必要があることを導き出しました。しかし、日本は海外と比べると支援が充分ではなく、多機関・他職種が連携し「家族」のニーズを汲み取り、希望する支援が実現することが望まれるとのことでした。



島根大学ダイバーシティ推進宣言の改訂と「性の多様性に関する基本方針と対応ガイドブック」発行

平成30年度に日本学生支援機構が示した「大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解促進に向けて」を受け、昨年度本学でもダイバーシティ推進室の中に性の多様性に関して検討を行うワーキンググループを設置しました。他大学が行っているLGBT等の学生への対応を参考に、構成員(教職員・学生)へのアンケートを実施し、集まった意見をもとに令和4年10月に島根大学ダイバーシティ推進宣言の一部改定と、性の多様性に関する対応ガイドブックを発行しました。

なお、ガイドブックについては10月以降各教授会等に、保健管理センターと共同でFD研修により周知しています。



女性研究者リーダー育成支援事業(プロジェクト創出型)

本学では、地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築しています。プロジェクト創出型支援では、地域の発展に貢献することを目指すため、新たな研究プロジェクトの立ち上げを支援することで、学際力やプロジェクトマネジメント力を備えた女性研究者の育成を行っています。令和4年度は8名の女性研究者に研究費を助成しています。

各機関の取組

女子高校生への裾野拡大

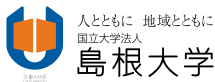
新型コロナウイルス感染防止のため3年ぶりに実施されている、大学訪問並びにNEXTA訪問で直接大学に来校される高校生に対し、昨年度作成した冊子「推し研究室」を配付し、女子の理系進学、ダイバーシティについてダイバーシティ室員から直接説明を行っています。



サイエンス・カフェ共催

「島根大学サイエンス・カフェ」は、これまで地域の方々に本学の研究活動に対する理解を深めていただくとともに、大学をより身近に感じていただけることを目的として開催されてきました。令和4年7月~9月にジェンダー平等をテーマとして開催されたこともあり、今後はSAN'INダイバーシティ推進ネットワークと共催いただけることになりました。





島根大学女性教員メンタープログラム

新任（着任後5年未満）女性教員が、一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムを令和3年度から開始しています。令和4年度は5名の新任女性教員（外国人教員を含む）がプログラムを活用しています。

研究サポーター制度

育児や介護等によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が配置した研究サポーターが研究の補助業務を行う研究サポーター制度を実施します。令和4年度は11名の教員が利用しています。



看護管理コンソーシアムしまね

令和4年8月24日（水）に県内看護管理者を対象に第6回カタリバを開催しました。カタリバは、島根県内の看護管理者のネットワークを推進し、管理者としての自信と勇気の湧く場をめざし、本事業で立ち上がった会です。今回は「ひとりひとりの力を最大限に発揮する『心理的安全性』のある職場について考える」をテーマに参加者22名で対話を行いました。自分の気持ちに素直にスタッフと向き合いたいという気づきがありました。

また、今年度、看護管理者が自らの看護管理の実践場面を振り返り、その中での気づきを実践知として共有していくことを目的とし、新たに「ナラティブ検討研修会」を立ち上げました。令和4年7月29日に第1回、10月28日に第2回を開催し、計11名の参加がありました。検討会ではグループに分かれて実際の事例を用いながらナラティブ検討を行いました。それぞれが抱く日頃の悩みも語り合いながら、新人看護師の育成や病棟マネジメントなどの事例から見てきた実践知を共有しました。



ハラスメント防止研修会

令和4年7月1日（金）から8月31日（水）の間に、動画視聴によるハラスメント防止研修会を開催しました。

この研修会は、ハラスメントの防止対策をさらに促進することを目的として、本校教職員を対象に行われたものです。研修動画は、国立高等専門学校機構が作成した株式会社フォーブレーションによる「ハラスメント防止研修」で、119名の参加がありました。

2022年度松江高専女性研究者育成支援事業

特に優秀な女性研究者の研究推進に関する支援を目的として研究費を助成しています。今年度採択されたのは下記研究課題です。

「半開放型プロペラファンにおける入口の翼端まわりの流れに関する研究」

柳 品（機械工学科（講師））

「暗黒物質を含む中性子星の構造解析と状態方程式」

渡邊 千夏（情報工学科（助教））



OB・OGとの交流会

令和4年7月15日に本校電子制御工学科卒業の杉本良子さん（JR東海勤務）を講師に招いてオンライン形式での交流会を実施し、15名の学生が参加しました。当日は、杉本さんの高専時代や社会に出てからのエピソードを聴講した後、交流会では現役学生に対して高専の先輩ならではのアドバイスなど、様々な意見交換が和やかな雰囲気で行なわれました。



先輩リケジョによる中学校での講演会

今年で4年目となるこの企画は、本校女子学生が先輩リケジョ（理系女子）として出身中学校へ出向き、リケジョの魅力やメリットを女子中学生に伝えることを目的としています。今年はこれまで4校で実施し、女子中学生から多くの質問が出るなど活発な交流の場となりました。

女子中学生向け公開講座

令和4年10月1日に「身近な医薬品の合成」、同年11月12日に「ロボットカーでライントレースに挑戦」というテーマの公開講座を主に女子中学生を対象として本校女子学生（先輩リケジョ）のサポートの下で実施しました。計24名の中学生が参加し、満足度100%という結果でした。参加した中学生は、理系への興味がさらに膨らみ、先輩リケジョとの交流を楽しく過ごしました。